

Journal ONE

日本と世界を繋ぐ国際交流メディア

エコパで広がる新時代のスポーツ体験—OPEN DAY 2026が示した未来



エコパで広がる新時代のスポーツ体験—OPEN DAY 2026が示した未来



スタジアム前の特設会場—Journal-ONE撮影



馬瓜エブリン選手と焼津CITY Unitedの選手たち—Journal-ONE撮影

エコパが育む多彩なスポーツ文化

エコパは、静岡県袋井市と掛川市にまたがる広がる広大な施設だ。正式名称は、“[小笠山総合運動公園エコパ](#)”。スタジアムとアリーナを中心に、国内外の大舞台を受け止めてきた“スポーツの聖地”として知られ、地域の鼓動が集まる場所として進化を続けている。

エコパでは、サッカー、陸上、バスケットボール、ソフトボールなど、アマチュアからトップチームまで多彩な競技者が集う。

特に、2002年にはサッカーW杯、2019年にはラグビーW杯が開催。その熱狂が渦巻いたスタジアムは、世界の歓声に包まれた歴史を持つ。そしてこの秋、アジア競技大会の女子サッカー会場として再び注目を浴びている。

エコパ発の新イベント—OPEN DAY 2026

●エコパとアーバンスポーツの融合

そんな静岡の丘陵に広がる“エコパ”は、スポーツの未来を照らし続けるべく、新たな試みを行った。その試みは、“エコパコソスポーツパークOPEN DAY 2026”という新しいイベントだ。

6月最初の週末、メインスタジアム前のエントランス広場には、今注目される“アーバンスポーツ”を集めた特設会場を設置。静岡県内はもちろん、各地から各競技の“トップアスリート”が大集結。さまざまな催しで、静岡県を中心とした地域の皆さんと笑顔の交流を行った。

3×3バスケットボールコート誕生と初披露

●馬瓜エブリン選手が登場したお披露目イベント

まず注目したのは、バスケットボール3×3の会場だ。この春、エコパでは多様なスポーツの受け皿施設として3×3のコートを新設。このイベントで初めてお披露目を行った。

その記念すべき初回イベントに登場したのは、[馬瓜エブリン](#)

選手。日本女子バスケットボール屈指のフォワードとして日本代表を牽引しつつ、Wリーグの[ENEOSサンフラワーズ](#)でも活躍。昨シーズンは天皇杯優勝に大きく貢献した。

圧倒的フィジカルと明るい存在感でチームに勢いをもたらす“エネルギーの象徴”であるエブリン選手。日テレのNEWS ZEROでキャスターを務めたり、自らが3×3バスケットボールイベント主宰したりと、バスケットボールの価値を広げる活動を行っている。

今回も、“エコパココ スポーツパークOPEN DAY 2026”の開催趣旨に賛同し、子どもたちとの触れ合うためにやって来た。

●静岡唯一のプロチームも参戦

さらに、この3×3バスケットボールのイベントには、静岡県内のプロチームも参加した。焼津市を拠点とするトップリーグ・3×3.EXE PREMIERで戦う”[焼津CITY United.EXE](#)”の選手7名だ。

小学生を対象としたクリニックでは、最初は大きな焼津CITY United.EXEの選手たちに緊張していた子どもたち。しかし、優しく語りかける選手たちの笑顔に、徐々に緊張が解れると、最後は笑顔で選手たちのレッスンを受けていた。

●エブリン、焼津CITY Unitedと笑顔の交流

中学生のクリニックでは、エブリン選手自らが「試合に繋がるプレー」を伝授。サポートに入った焼津CITY United.EXE選手たちも、ひとりひとりに丁寧なアドバイスを行った。その結果、中学生たちの動きは一変。巧みなボールさばきで次々とマークを外してシュートに持ち込んでいた。

また、会場を沸かせたのは、焼津CITY United.EXEによるエキシビジョンマッチだった。間近で見る大きな選手たちの身体がぶつかる音に「おお！」というどよめきが起こる。

大きな弧を描いて放たれたロングシュートがリングを射貫くと、「わあ！」という歓声に変わる。目を輝かせた子どもたちは、イベント後に列をなして焼津CITY United.EXEの選手たちにサインを求めている。

新競技テックボールと異種スポーツ対決

●テックボール日本代表と地域チームの競演

続いては、[TEQボール](#)（テックボール）という新しい競技。こちらエコパで新たに設置された競技台のお披露目となった。

サッカーと卓球を融合させた新感覚スポーツで、湾曲した専用テーブルを使い、足・頭・胸など手以外の部位でボールを返し合う競技だ。

2012年にハンガリーで誕生し、世界的に競技人口が拡大。高い観戦性と安全性が評価され、今回のアジア競技大会の正式種目として採用された。

日本代表選手で、日本テックボール協会代表理事も務める早稲昭範選手を始め、新井誠弥選手らが登場。日の丸を背負う4選手が、老若男女さまざまな参加者と笑顔で体験会に汗を流した。

●静岡の強豪チームが挑んだ“異種スポーツ対決”

このテックボールで一番の盛り上がりを見せたのは、様々な静岡県内のスポーツチームと対決する“異種スポーツ対決”だ。プレナスなでしこリーグ1部に所属している女子サッカーチーム、“[静岡SSUポニータ](#)”と、東海1部フットサルリーグ所属の“[デリッツィア磐田](#)”がテックボール日本代表に挑む。

さらに、バレーボールのV.LEAGUE WOMENに所属する“[ブレス浜松](#)”や、女子7人制ラグビーチームの“[アザレア・セブン](#)”も参戦。バレーボールのサーブやアタックでボールを打ち込むブレス浜松に対し、ルールどおりにボールをさばくテックボール日本代表のプレーにどよめきが起こる。

また、アザレア・セブンは得意の楕円ボールで勝負を挑む。硬く不規則なバウンドをするラグビーボールには、さすがのテックボール日本代表も大苦戦。とがった部分でヘディングをするなど、珍プレー続出に、今度は会場からは大きな笑いが起こっていた。...続く

この記事は、2026年06月07日に公開したものです。
記事の全文は、右のQRコードを読んでご覧ください。



Journal ONE CONTACT

✉ journalone.staff@gmail.com



日本語WEB
<https://journal-one.net/jp/>

Instagram
@journalone_official



英語版WEB
<https://journal-one.net/>

X
@JournalONE_web

Youtube
@journal-onejapan1635

